

④ 優良事業者のごみ・資源物分別の取組事例

それでは続いて、ごみの減量、リサイクル推進に積極的に取り組み、大きな成果をあげている区内企業及び学校施設の取り組み事例をいくつかご紹介します。更なるごみの減量、リサイクル推進の参考にしてみてください

区内企業取り組み事例

トヨタ自動車東京本社

(アナ) さあ、今日は区内にあるトヨタ自動車東京本社にやってきました。リサイクルの取組みについて早速お話をうかがってみましょう。

さあ、今回リサイクルの取組みについてご紹介いただくのは、東京総務部の那須さんです。まず、早速になるんですけども、何からみせていただけますか？

(トヨタ) それでは、フロアの分別状態の方から、見ていただこうと思います。

フロア内 分別BOX

(アナ) こちらが分別BOXですか？

(トヨタ) 各フロアにこのように、ごみ箱が設置されております。4種類のごみに分けていただくことにしています。紙を入れる紙類、燃やさないBOX、燃やすBOX、古紙類である新聞・雑誌・段ボール、そういった物に分けてもらっています。まずここで従業員に一次分別をしていただいています。

(アナ) 実際に社員の方たちが、こちらにごみを持ってきて、分別をするということなん

ですね。

(トヨタ) そうです。で、その後清掃の方にさらに2次分別というのを実施していただいています。特に、燃やさないBOXの中には、金属類もありますし、ペットボトルもあります。なので、ここには従業員の方はまとめて入れるんですが、それをさらに細かく分別という形で、我々は2次分別という風に呼んでいます。

地下 ごみ・資源物最終保管場所（兼収集場所）

(トヨタ) こちらがですね、当ビルの最終の集積所になります。それぞれ清掃の方が持ってきた物を、さらに細かく分けてこのように分類をするということです。従業員が捨てにきても、何をどこに捨てていいのか、迷わないようにということで、分別配置図というものを設置してあります。

(アナ) 紙でもこんなに分ける種類が細かくあるんですね。

(トヨタ) そうですね、有価物にするためにはそれぞれ買取り業者さんが希望される品種に分ける必要があるものですから、このように分けさせてもらっています。

有価物保管庫

(トヨタ) こちらが有価物を分別する場所になっています。これは、一般的なフロアから出てきたイスなんですが、ネジを外せば金属物とプラスチックの部分に分けることができます。この時点で、廃棄物と有価物に分けることができます。家具についても、ネジさえ外してしまえば、金属は売れますし、板だけが廃棄物になる。

(アナ) ここでも細かくネジを外して、分別されるんですね。

(トヨタ) そうですね、量を減らすという努力を日々できるようにしています。

発生量&リサイクル率計算表

(トヨタ) マニフェストに基づいた数値を全て入力することによって、月々の廃棄物の量と有価物になった物を、全て表示をするという形をとっています。この情報はホームページ上でも公表してまして、従業員の方に見ていただいて、分別をすることによって、これだけ有益なことができていことがわかるようにしてあります。

東京総務部長との対話

(アナ) 最後に、ごみ減量化に向けて、トヨタ自動車の考えを伺いました。

(トヨタ) 数値を紙にしまして、誰が見ても、今どういう状態になっているのかを明らかにする、これを「見える化」とトヨタでよく言うんですけど、これを廃棄物、それからCO₂の排出等を、目で見える、みんなが見えるっていう風にして、改善をずっと積み重ねてきています。

実際「見える化」して一元管理することによって何が楽になるかっていうと、やっている担当者の方々が、今どれだけ廃棄物があるのか、どこの場所にどれだけ廃棄物があるのかわかるようになるので、すぐ処理がしやすくなるというメリットがあります。

で、社員一人一人にとってのメリットっていうのは、どう感じているかという意味でいきますと、やっぱり各フロア、仕事をする所が、ごみの分別とかで大変な所もあるかもしれませんが、まあでも東京の方々は家庭でもね、分別をしているので、まあそれを同じように会社でも分別をしています。例えばリサイクルでいうと、ペットボトルのキャップはキャップ

だけ別にしていますし、そういう意味でいくとあんまり違和感なく、社員の方抵抗なくやっ
ていただいているので、うまく回っているんじゃないかと思います。

どうしても、ごみって捨てる物、いわゆる廃棄物っていう風に考えているわけですがけれど
も、まあそれも元々あった物がなにかあるわけですから、それすらトヨタの資産だと思いま
すので、やっぱ、いかに有効活用するかということを日々考えながら、改善を続けていき
たいという風に思っています。

エーザイ株式会社

共有スペース 分別BOX

(アナ) 続いてお邪魔したのはエーザイ株式会社さんです。まずはごみの分別についてお
話を伺いました。

(エーザイ) わが社では、ここにお示ししましたように廃棄物の分類表（壁面に掲示）と
いうものを作成しております、かなり細かく分類を定義しています。

具体的には、ここにありますような紙類の分類、あるいは燃えないごみ、さらには金属類、
新聞類、それから分別不能の物、といったようにいくつかのカテゴリーに分けて、分別をき
ちんと勧めております。

グリーンBOX、オレンジBOXというのは、紙類の主な分別BOXになっております。
グリーンBOXの方では、主に下地が白地の紙を廃棄するBOXとなっておりますが、大半
はコピー用紙。こちらのオレンジBOXに関しましては、下地に色がついた物、封筒や包装

紙、パンフレット類が入れられることになっています。

(アナ) エーザイ株式会社さんでは、このように紙類、ミックスペーパーの分別を細かく行っています。その外にも分別の種類などを細かく明記するなど、わかりやすい表示方法も大きな特長の一つです。次にオフィスの様子も見せて頂きました。

事務室内

(エーザイ) こちらでも、グリーン、オレンジ、ミックスを主体とした紙類の分別廃棄が行われています。社員さんの便利さに合わせて、ある程度の広さに一つずつという感じで、実際のBOXを配備して、みなさんの業務に役立てて頂いております。

(アナ) オフィスの中にも同じように分別BOXが配置されており、わざわざ足を運ばなくてもいいようにという工夫がなされています。

Q. このようにわかりやすさと機能性を合わせた分別を行っているエーザイ株式会社さんですが、社員の方たちの意識はどうなんでしょうか？

(エーザイ) 社員全体にかなり意識が浸透しているという風にここ数年特に感じております。実際に数字的にもリサイクル率とか高いものになっておりますし、分別徹底に関しても社員間で意識のコミュニケーション上のいろんなやり取りなども出るくらい、かなり徹底されてきているという風に感じております。

Q. 有価に切り替えた理由は？

(エーザイ) 紙ごみの分別リサイクルというのは、もう15年来続いておまして、かなり成熟度を増して徹底がされております。で、この上でさらにどのような取組を進めていく

かということで、企業ですので、処理費の削減とか、そういったコスト面での意識を持つという意味からも、有価売却ができないかを考えました。

やはり、コスト意識に関わるものが入ってくれば、分別廃棄等の社員の意識がさらに向上する部分が出てきますので、単に分別してくださいということでも協力的なんですけど、もう一歩進めるという意味では、いい取組じゃないかと考えています。

Q. 食品リサイクルについて

(エーザイ) 食堂での残渣、あるいは残油の処理に関しても同様にリサイクル方向で進めておりまして、食物残渣に関しては肥料などのリサイクル、廃油に関してはインク等へのリサイクルというようなルートを確保しておりまして、ほぼ100%に近いリサイクル率でリサイクルをしていただいております。

リサイクルがこういった所へも浸透しているということは、社全体としてもかなり取組が進んでいるんじゃないかという風に考えています。

日本女子大学

(アナ) 続いてお邪魔したのは日本女子大学。こちらではどのようにごみの減量・リサイクルにむけた取り組みを行っているのでしょうか。

校舎内通路

(日本女子大) 当大学ではごみの分別がわかりやすいように、ごみの種類によってごみ箱に表示を付けています。あとは、ごみ箱にひと目でわかるようにごみの種類ごとに色を変え

て表示を付ける等の工夫をしています。

学生たちがごみ箱の前で表示を見ながら、自分の持っているごみを分別している様子をよく目にしますので、意識が高いと思います。

(アナ) 日本女子大学では、ごみの種類ごとに色分けする等の細やかな配慮により学生たちのごみに対する意識も向上したといえます。

(生徒1) 学校のごみ箱はいつも清潔できれいに保たれていて、それがすごくいいと思います。

(生徒2) 表示があるので、とてもわかりやすいです。

(生徒1) 紙ごみがトイレットペーパーとして再生化されているのを、表示で知ったことで、より一層ちゃんと分別しようという意識がわきました。

(アナ) 今回ご紹介したように文京区の企業や学校などは様々な努力と工夫によってごみの減量とリサイクル推進を図っています。

これらの取り組みは経費が必要になってきますが、この先の未来を考えれば、地球環境にとって、大きなメリットとなるのです。